



社団法人 岡山県畜産協会
会長 本松 允之

新年のご挨拶

新年おめでとうございます。皆様にはおそろいで希望に満ちた新春をお迎えることとお喜びを申し上げます。旧年中は、本協会の運営と諸事業の推進には格別のご理解とご協力を頂き誠にありがとうございました。

食品に起因する事故や疑惑から国内での安全な食糧自給が強く叫ばれながらも、穀物など輸入生産資材の高騰と先行き不透明な経済動向により畜産業界においても本当に厳しい試練の一年が過ぎました。

全国からの強い窮地の訴えと支援要請に応え、国からは2月の畜産酪農緊急対策に続き6月、11月と三次にわたる異例の特別支援措置も講じられました。本協会でも一連の措置が県内で無駄なく生かされるよう、新制度への加入促進や基準価格の期中改定などに追われましたが、中央団体や県からの支援諸事業とあわせて農家経営の安定と一般消費者への畜産現場の理解醸成やPR活動など、多忙ながらも会員団体並びに関係機関のご協力のお陰で円滑な活動を取めることが出来ました。

明けて今日では、海外での投機目的の穀物取引熱は冷めつつあり、飼料など生産資材価格も平静化が伺われますので、今回の試練を教訓として海外で吹く風の影響がまともにおよぶことのない生産環境づくりの大切さを忘れず、関係者が一丸で明るい展望に立ち向かえる年となることを願わずにはおられません。

対外的にはWTOやFTA交渉の成り行きなど気の抜けない国際環境にある一方、国内では国土や環境の保全と深く関わりのある農業の大切さが近年特に大き

く取り上げられ、安全で健康な食生活を支える地産地消運動など畜産を含む地域農業の安定と発展を望む声は一段と高まってまいります。

このため、国の21年度予算要求では「新たな国際環境に対応できる力強い畜産経営の確立」が強く打ち出され、耕畜連携による青刈りトウモロコシや稲発酵粗飼料など自給飼料の増産と広域流通体制整備、エコフイードなど地域資源の積極的活用を求めた強化措置も謳われております。

県内でも稲発酵粗飼料の取り組みが急激に進み、畜産・酪農地帯以外でも水田農業確立対策とからめて粗飼料生産面積が拡大して地域農業の中に畜産が確実に位置づけられた耕畜連携の整いが感じられております。

当協会ではこうした様々の状況を追い風と読み、諸施策と制度のもとで生産経営・家畜防疫・価格安定・生乳検査など一連の業務に一層精励して、活力に富み地域や消費者の期待にも応え得る畜産経営の実現を目指してまいりますので一層のご支援とご指導ご協力をお願い申し上げます。

丑年の一年が、緩くても一步一步、着実な成果を残して歩み、岡山県畜産の発展と皆様のご健勝とご繁栄につながりますことをお祈り申し上げます、新年のご挨拶といたします。